



夢中になれること

8月、私たち職員は研修に参加する機会がたくさんありました。法人研修をはじめ、外部研修では全国の保育者、研究者や保護者が集まる全国研修会が多数あり、そこでは実践を発表したり、子どもや保育のことを語り合いました。また、学びながら今、目の前にいる子どもたちが何を願い、何を思っているかに目を向け日々の暮らしを大切にしていきたいと改めて思いました。

今回研修に参加する中で、実践に出てくる子どもたちも保育者も保護者も皆、色々なことに“夢中”になって楽しんでいる姿が印象的でした。研修会の中でも夢中になって色々な話をし、とても充実した楽しい時間でした。子どもたちの日頃の生活に目を向けてみると、何かに夢中になって遊んだり、夢中になって考え合ったりしている姿はとても楽しそうではないでしょうか。今の子どもたちにはそのような時間がとても大切です。子どもは夢中になれることを見つけて遊びこむ中で、色々な発見をしたり、学んだりしているはずですよ。私たちはつい子どものことを思って何かをさせようしたり、先回りしてしまったりすることもあります。それによって子どもが自ら考えて行動することを奪ってしまうこともあるでしょう。すこし大人が立ち止まって子どもの姿を観察し、子どもの「今」に目を向けてみると自然と間が生まれ、子どもの行動ではなく、子どもの思いに目が向けられるようになると思います。すると、大人にも心の余裕が生まれ、子どもがやりたいことを知れたり、子どもがやりたいことに向かうことを後押しできたりすることもあるかもしれません。子どもが夢中になって、知りたい、学びたいという時間をたくさん作ってあげたいですね。

エピソード①

れんげグループおたより

やまさんのやりたいを大事に（幼児クラス）

給食の配膳活動をやりたい3歳児のAくん。フルーツを配る当番をしてくれています。

本当は必要な数を数えてお皿に盛っていくのですが、とにかくやりたいAくん。上の子の姿を真似て指折り数える姿は“イチチョマエ”でもお皿に盛る数にはばらつきがあります。その様子見ていた4歳児のBくんと、5歳児のCくん。決して否定や訂正はしません。きっと間違っていることはわかっていたでしょう。でもAくんの姿を黙って見守ってくれていました。Aくんのやりたい思いを感じ取ってくれていたのだと思います。と担任は感じていました。そんな異年齢での関わりに心が温まりました。

このように相手の行動から思いを感じ取って、そっと見守ることができるってとても素敵ですね。

これも夢中になっている子に対する素晴らしい関わりだと思いました。

エピソード②

おなかすいちゃうよ～（年長児と私（平野）との飼育体験）

Dくんは園庭にいた何かの幼虫を夢中になって捕まえてきたようで、虫かごいっぱいです。事務所の私に見せに来てくれました。Dくんはその幼虫を愛おしそうに見つめます。私も一緒に夢中になって観察しました。葉っぱをむしゃむしゃ食べる幼虫を見て、気づいたDくん。この日が金曜日だということです。「おやすみのあいだに おなかすいちゃうよ～」と土日の幼虫の餌の心配です。早速、雨の中でしたか傘をさして探しにいきました。戻ってくるとすぐに虫かごいっぱい餌をいれ、また観察を再会しました。幼虫は葉っぱを夢中になって食べ、Dくんの目の前でウンチもしました。「わぁ～」と声が出るDくん、とても楽しそうです。夢中になって観察しているからこそ見られる瞬間です。Dくんの目はキラキラ輝いていました。この姿こそが“知りたい・やりたい”の思いが膨らむ時間だなと感じました。こんなふうに夢中になれる時間を大事にしていきたいです。